

を広く開いてさし狭さむようにする（各指の

間に間隔がある）即ち「小」の字を形どり

——男性（又は女性）(何) 齡——低い（下に

向けた掌を下へ降す）——男性（女性）

小心 「寛大」の手まねと反対、即ち、腹

の上で両手の人差指と親指で円を形どったの  
を、その円を小さく縮める。

常人 (何) 變態者に対する有聴者（普通人）

左手指頭を上にした人差指を口もとから

前にさし（出し物云う）、右手指頭を上はさし

た人差指を耳もとから右方へさし出す（聞え

る）この両手の運動は同時に行う。

(何) 一般の常人。普通——人々

小説 「作文」の(何)——話

醸造 酒（或は醤油）——造る

招待 掌を上向けた両手を右方斜め前にさ

し出し「さあ、どうぞ」とばかり、両手を引

き寄せる。

上達 「上手」「うまい」の(何)の手まね

で、右手で左手の腕を下へ撫で降す運動を徐

々に行う。次第に上手になるの意。

冗談 五指を集めた両手を上下にして互の

指頭でにつつき合わせる。

承知 (何) 承知した。「解った」の手まね

(何) 承知している。「知っている」の手まね。

商店 商い——店

商人 商い——人々

娼婦 人差指の爪の上に隣りの中指の指頭

をつけて、穴をつくったのを眼にもって行

き、のぞき見るようにする。——女性、昔の

遊廓で格子の間から又は風穴から娼婦が外を

のぞいて、遊客を待っていたことから出来た

手まねか。

勝負 指頭を上にした親指の左右両手を

胸の前で対立させ、交互に上下にあげ降しす

る。

丈夫 「健康」と同じ。

消防 「火事」の手まねをして、両手でポンプのホースの筒先を持って左右に水をかける身振。

書記 事務——男性（或女性）

職業 「仕事」或は「商い」

職工 工場（機械）<sup>△</sup>女性（女工）<sup>△</sup>男性

諸君 掌を下向けに右手を左肩辺りから前の空間を右へ弧を描いて運動させる。誰れもがする満堂の聴衆によびかける身振り。

処女 結婚——まだ——若い——女

書齋 本——見る——字を書く——部屋

除籍（除名）左手掌の上に、右手の五指を集めた指頭をつけ、その手を手前の方へ、払い除くように引き離す。「就職」「就任」の反対の運動。

署長 警察——主人

シヨート（遊撃手）野球の遊撃手の「遊」

をとって、即ち「遊ぶ」の手まねをすればよい。  
書道（習字）左手肘を机につけた姿態をして、その左手の手甲の上に右手の手首をのせ、文字を書く身振り、これは「事務」と同じ要領の手まねであるが、文字を書く身振表現は大きくすること。

書物（本）合掌した両手を書物の形に開く

庶務 左掌の上に、右手の人差指の指頭で二三行ばかりの線を書く。いろいろな事務の書類に線を引いて片づけて行くと云うこと。

助力 骨折り（掌を下に向けて拳にした左手の腕の上を右手拳で叩たく）——与える（右手掌を上向けて前にさし出す）

上品 「高尚」と同じ。

醬油 小指の先を僅かになめて見る。人が醬油の味を見るように。

知らない (4) 右胸脇に右手の五指の指頭をつけ、胸の上の埃を払い落すように上下に